桜美林学園交流事業に参加して（報告・感想）

2016 年(平成 28 年)2 月 19 日

清水文和

清水安三先生とは面識がありませんが、高島市新旭町北畑の清水一族ということで遠い親戚にあたるとともに、昔の偉人を知ることができる良い機会ではないかと思い参加させていただきました。東京までのバス中は元気なお姉さま方のお話を聴きながら、長くも短い道中でありました。改めて女性パワーに感激いたしました。

桜美林学園での交流会には、安三先生の偉大さは当然のことながら、先生を取り巻く人々の偉大さも知ることとなりました。やはりこれだけの大きな事業を成功させるのは一人の力ではどうしようもなく、その人に力を貸す、それも金銭ではなく心意気に惹かれて協力する、魂の伝導により成し遂げられたものであることを実感しました。交流会に来られている方々は皆楽しそうで、家族的は雰囲気であった。すでに亡くなられて約３０年経つというのに、すぐにこれだけの人が集まるということは、この人たちにそれだけのことを安三先生が尽力したということだろうと思いました。

私も小さいころは新旭町北畑の美世図書館にて聖書を学んだ経験があります。小さいながらも聖書の中身をわかりやすく教えてもらい、人とはこのような心で生きていかなければならないという心の芯になるものをつくってもらったことを思い出しました。その後４０年聖書から離れ俗世間の人間関係にもまれ、心の芯が埋まってしまっていることに今回改めて気がつきました。あと何年生きられるのかはわかりませんが、もう一度心の芯を磨き、人のために少しでも尽力できればと感じました。

平井美佐子

「清水安三先生」のお名前は知っていましたが、どのような活躍をされた方か知らないに等しい私でした。しかし、高島市民劇で清水安三先生のご功績を知る機会をいただき、そして 5 年前に清水安三先生が中国北京市に創立された崇貞学園（現在の陳経綸中学校）訪れる機会をいただきました。

郷土の偉人・先人といえば高島市安曇川町に住む私には、中江藤樹先生が一番に思い浮かびました。しかし、北京に行ったことにより、清水安三先生もまた中

江藤樹先生と同じ郷土の偉人であることを知りました。そして今回、桜美林学園を訪問させていただき、学園内を見学、清水畏三先生のご講演を拝聴しました。畏三先生は「高島の人は、藤樹先生を大切にするように」と何度もお話になりました。その声が今も耳に残っています。高島の子どもたちに中江藤樹先生の教えと同じように、清水安三先生のことを伝えたいという思いをもって高島に帰ってきました。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

伊香悦子

ほほえみコーラスは、平成二十年中江藤樹生誕四百年祭を記念して「橋をかけよう」を歌わせてもらい、そのご縁で清水安三先生の功績と巡り会い、崇貞学園九十周年の記念に参加させてもらい、「びわ湖周航」の歌を中国で唄ってまいりました。また、清水安三物語「木槿の花の咲くころ」の市民劇では合唱で参加させていただきました。

例年ならば寒さ厳しい二月でしょうが、暖冬の春雨がぱらつくような中、ほほえみコーラスのメンバーは顕彰会の皆様とご一緒させていただき、桜美林学園創立七十周年記念企画のワークショップに参加させてもらいました。いつもと変わらない清水賢一先生の穏やかな笑顔に迎えられて緊張が少し解れるようでした。また、桜美林学園を支えてこられた田口敏三先生の功績を拝聴し、安三先生とヴォーリズ先生の関係を「一枚の写真」からお話いただき、清水畏三先生に「安三先生と中江藤樹論」と題して講話もいただき、最後に「高島の方たちは藤樹先生を大事にしてください」とおっしゃいました。私たちは中江藤樹生誕四百年祭を機会として、これまで藤樹先生の歌を唄わせていただいたご縁に改めて感謝の気持ちで胸がいっぱいになるのを感じました。

最後に山は青く、水は清く、そして藤樹先生がいらっしゃる高島の地を、今も安三先生は遠くから見ていらっしゃるだろうと想いながら「ふるさと」を合唱しました。その時も賢一先生は、拙い未熟な私たちの歌声にも決して笑顔を絶やさず穏やかに見守ってくださいました。

皆様の穏やかな表情と謙虚な仕草や語り方は、安三先生が愛情を持って教育されてきた教えの賜物でしょう。慌ただしく過ぎていく日々の中で生きている私にとって自分自身を省み、教えられる時間でありました。改めてこの機会を与えてくださいました皆様に感謝申し上げます。

新旭北小学校四年生　加藤大輝

僕は前にお母さんから、清水安三先生はとっても偉い人だと教えてもらいました。どうして偉いのか、お母さんから話を聞いてみて少しはわかったけれど、わからないこともたくさんありました。家にある薄い黄色の表紙の本を読んでもらったけれど、難しくてわかりませんでした。夏くらいに、北畑にある清水安三記念館に初めて行きました。そこで、写真や安三先生の書いた文字を見て、甲子園で優勝した話を聞いて、すごく興味がわきました。自分がやると決めたことは、絶対にやる、それも周りの人を巻き込んで、楽しく実現してしまう人だと思いました。

今年、お母さんが桜美林学園に行くと言った時、絶対について行くと決めました。安三先生が中国から帰ってきてつくった学校を、見てみたかったからです。それに、まだ東京に行ったことがないので、いいチャンスだと思いました。

今回桜美林学園へ行って安三先生のことをいっぱい知ることができました。一番印象に残ったのは、学園見学で石碑などを見ていると、中江藤樹先生の像がありました。藤樹先生は学校でも習いました。その藤樹先生みたいな人になりたくて、藤樹先生の事を尊敬していたのだと知りました。新しくわかったことがいっぱいあって、例えば桜美林に「小学校がない。」ということです。これは、とても残念に思いました。改めてわかったことは、安三先生は優しい人だということです。それは、日本人なのに中国の人も韓国の人も助けたからです。

そして、桜美林学園で迎えてくれた大人の人たちも、とても優しい人たちばかりでした。最初の小林先生のお話も、清水畏三先生のお話も少し難しかったけど、なんとなくわかりました。畏三先生が、写真で見た安三先生と似ていました。前に出て、琵琶湖周航の歌を上手に歌えました。

帰ってきてから、今回のことを教室で発表しました。みんなは、「ふ〜ん、そうなんや〜。」という感じでしたが、僕たちくらいの年齢の子どもを、たくさん助けた安三先生のことを、僕はもっと知って、みんなに教えてあげたいと思いました。

早藤典子

ご縁の始まりは、2011 年秋の北京での桜美林学園 90 周年記念行事の参加でした。松本孝太郎先生を団長として、高島市のほほえみコーラスとともに市長のお祝のメッセージをもって北京を訪れました。初めての中国、初めての陳経倫中学校と、わくわくしながら行事に参加させて頂きました。その時以降、度々ご縁を

結んでくださったのが清水賢一先生でした。お会いする度に何か楽しい事、新しい事、前向きになれるような事を企画・提案してくださいます。ある時、清水安三記念館で北京に行ったメンバーで研修会（茶話会）を開いてくださった時に、メンバーから「桜の咲く頃に大学に行ってみたい」との声を聞き、清水賢一先生は、また今回の企画を思いつかれたのではないでしょうか？

桜が咲く頃の大学訪問とはなりませんでしたが、若い学生でいっぱいのスクールバスで訪れた大学では、大学関係者の方々のご配慮あふれる学内ツアーと、中江藤樹の事、ふるさと滋賀の事を切り口とした講演は大変興味深く新鮮なものでした。そして、高島市からきた私たちに対していたる場面においてあたたかい心配りをして頂いている事を感じずにはいられませんでした。初めて陳経倫中学校を訪れてから5年目に、まさか学園創立70周年の講演会に参加して、そして、琵琶湖周航の歌を歌うことになるなんて素敵な想定外です。こんなご縁もあるんですね。

清水安三先生顕彰会の活動でサプライズなご縁を結んでくださった清水賢一先生、大学関係者の方々に感謝申し上げます。